

北近畿地方における前期古墳  
埋葬施設主軸方位の地域性

古川 匠

2026年3月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



# 北近畿地方における前期古墳 埋葬施設主軸方位の地域性

古川 匠

## 1. はじめに

京都府北部の丹後地域では、「日本海三大古墳」の呼称が広く浸透している蛭子山古墳(与謝野町)、網野銚子山古墳、神明山古墳(いずれも京丹後市)をはじめ、古墳時代前期の中型、大型古墳が数多く築造された。これらの古墳の発掘調査も、戦前を含めるとこれまでにかなりの蓄積があり、複数の古墳に「丹後型円筒埴輪」が樹立され、埋葬施設に石棺が多く採用されるなど、地域に独自の古墳文化が形成されたことも判明している。

筆者は京都府南部の山城地域及び近隣地域を含んだ範囲を対象に、主に前期から中期前葉(和田晴吾編年一～六期、広瀬和雄編年1～5期)の古墳埋葬施設の主軸方位について比較検討した。<sup>(注1・2)</sup>その結果、近畿地方中央部の影響を強く受けて古墳時代初頭から主流となる北-南主軸の埋葬施設に対して、山城地域を含む淀川流域の広い範囲で、前期後半から中期前葉にかけて東-西主軸の埋葬施設が主流となることを示し、従来指摘されてきた四国地方東部の影響だけではなく、この時期の淀川流域の有力者間で形成された紐帯を反映していると推定した。

一方、広い耕作面積の確保が不可能な丹後地域で「日本海三大古墳」が形成されたことは、巨大古墳が陸続と築造された奈良盆地を中心とする、近畿地方中枢との強い関係を反映すると考えられる。そしてその一方で、当地域で独自に構成された古墳文化が地域内における有力者間の交流をどの程度反映しているのかについてもこれまで関心が寄せられてきた。埋葬施設の方位も、こうした地域間関係や地域内の関係を検討する上で重要な課題の一つであるが、これまでこうした分析は、資料数が一定蓄積されているにもかかわらず、あまり進んでいない。こうした背景から、埋葬施設主軸方位の分析は、京都府北部の古墳を検討する上でも一定の意義を有すると考えられる。

なお、分析の範囲は、丹後地域を中心に、隣接する但馬と丹波北部、いわゆる「北近畿地方」と称される地域を主な対象とする(図1)。

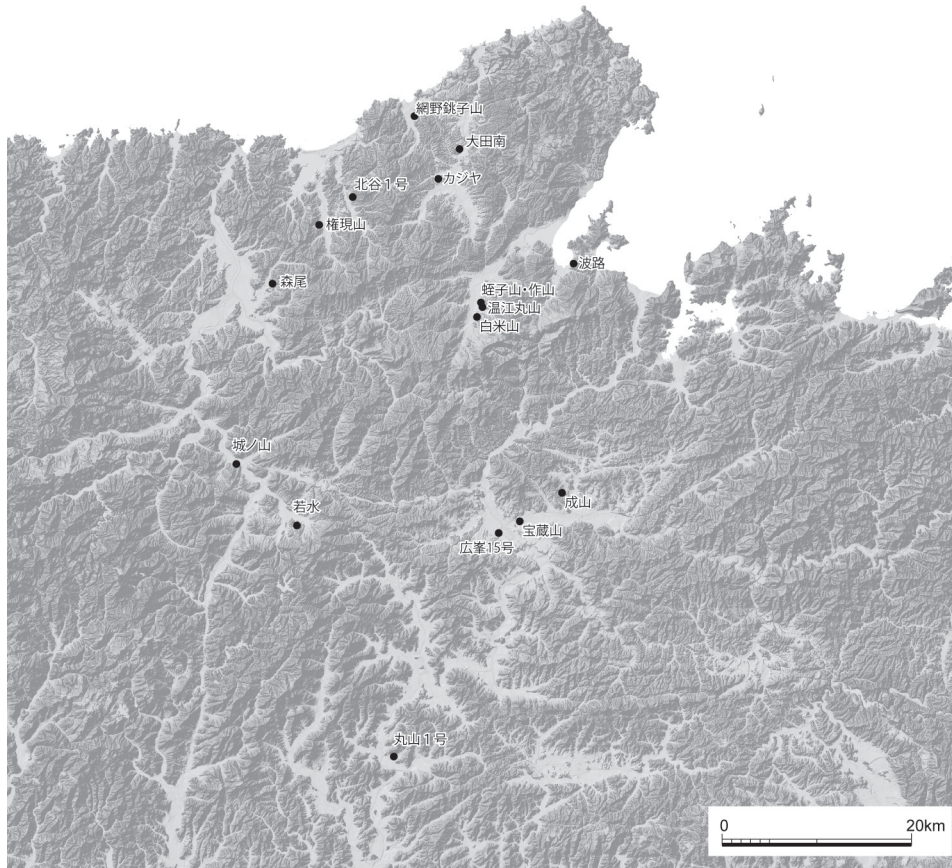


図1 各古墳の位置図(国土地理院陰影起伏図に加筆)

## 2. 先行研究

古墳埋葬施設の頭位は、古墳における葬制、地域間関係、さらに古墳時代の方位観念を検討する上で研究の対象となってきた。

近畿地方中央部の前期古墳の埋葬施設頭位について、都出比呂志は北頭位が優勢であることを主張した。<sup>(註3)</sup> また、全国規模で竪穴式石室(石槨)の分析を実施した都出は、丹後及び丹波地域ではカジヤ古墳、権現山古墳、丸山1号墳の事例を挙げ、東西優位の地域であることを指摘した。そして、カジヤ古墳の石室(石槨)等が両短辺の床面の高低差が無い特徴を有し、近畿中央部や山陽地方の多くの事例とは差異があるが、四国や九州の諸例とは近いということも指摘している。

北條芳隆は、北を指向する近畿地方の古墳埋葬施設の大多数の事例について天体との関係を検討し、特に北斗七星の柄の端に位置する星、「揺光」の周回軌道の範囲内に収まる

ことを指摘している<sup>(注4)</sup>。また、少数の東西方位事例のうち、特に京都府大山崎町の鳥居前古墳については、夏至の日の入り方位に照準を定めた可能性を指摘した。さらに、北頭位の優勢は、中国の北辰信仰からの影響を受けているが、当時の倭人の技術では北天の星空を観測することは困難であり、日中の太陽の運行と影からまず東西を割り出し、派生的に南北を導出したと解釈した。

### 3 分析の手法

前稿と同様の手法で、地域ごとに前期から中期前半の古墳埋葬施設主軸方位について検討するが、分析の手法としては、360度の方位を8分割し、埋葬施設主軸が座標方位の北(真北)－南(真南)軸から左右22.5度、合計45度の範囲に収まる場合は「北－南主軸」、東(真東)－西(真西)軸から左右22.5度、合計45度の範囲に収まる場合は「東－西主軸」とする。この範囲から外れる場合は、振れる方向に従って、それぞれ「北東－南西主軸」、「北西－南東主軸」とする。調査報告によっては、埋葬施設の主軸方位を明記していないものがあるが、その場合は報告掲載図面から導出した<sup>(注5)</sup>。

### 4 事例の分析

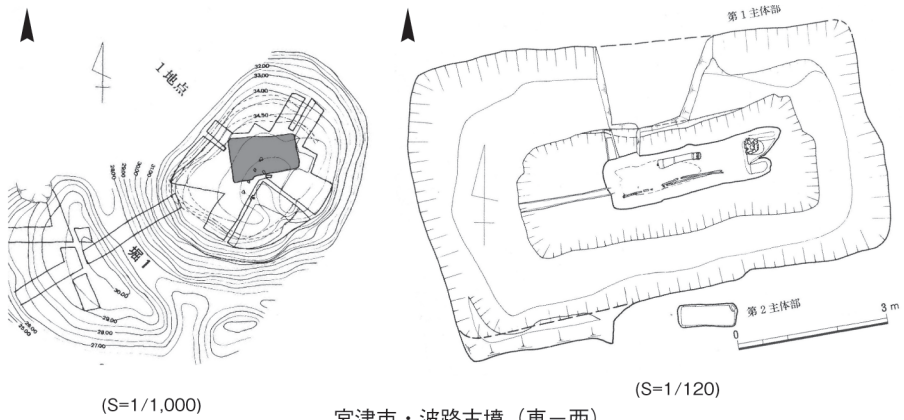
#### (1) 丹後地域

丹後地域は現在の行政区分では、東部の与謝野町、宮津市及び伊根町と、中央部と西部にまたがる京丹後市から構成される。さらに細かく区分すれば旧郡または平成の大合併以前の町村での区分も可能ではあるが、数の限定される古墳埋葬施設を対象とすることから、現在の行政区分に即して記述する。

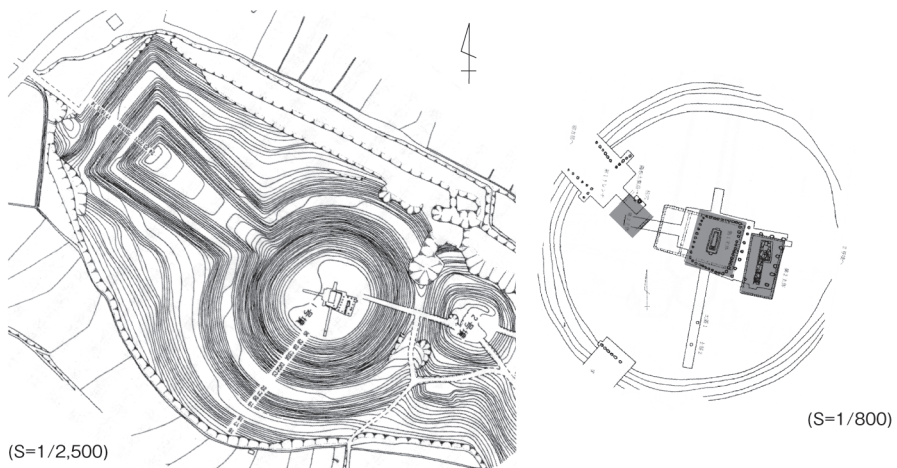
##### ① 東部(与謝野町・宮津市域、図2)

波路古墳(宮津市・30m円墳)は、中央部に割竹形木棺を直葬する大型の墓壇(第1主体)と、隣接する小型の墓壇(第2主体)が検出されている(宮津市教育委員会1988)。第1主体では黒漆塗の靱とヤリ、玉類が副葬されていた。第1、第2主体部の主軸は並行し、いずれも東－西主軸である。墳丘主軸は北東－南西であるため、墳丘に対して約45°主軸が傾いている。

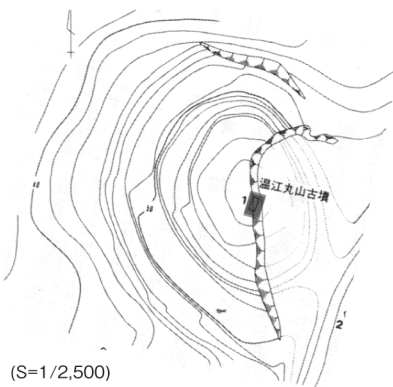
与謝野町域の代表的な前方後円墳、蛭子山1号墳(与謝野町・145m前方後円墳)は、蛭子山古墳群の主要墳で、蛭子山古墳群に属する古墳のうち、唯一埋葬施設の詳細が判明している(加悦町2007ほか)。墳丘は3段築成で墳長145mを測る丹後地域東部で最大規模の前方後円墳である。葺石が全面に葺かれ、丹後型円筒埴輪が墳丘テラス面に樹立される。埋葬施設は後円部に3基あり、それぞれ、花崗岩製の舟形石棺、竪穴式石槨、木棺直葬で



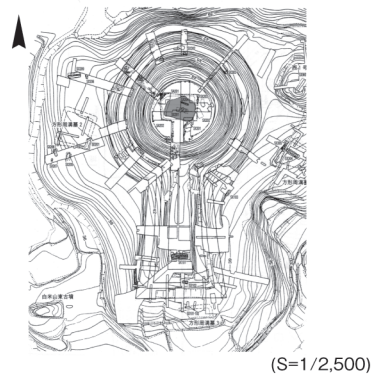
宮津市・波路古墳 (東-西)



与謝野町・蛭子山1号墳 (第1・2主体 北-南、第3主体 北東-南西)



与謝野町・温江丸山古墳 (北-南)



与謝野町・白米山古墳 (東-西)

図2 丹後東部(宮津市・与謝野町域)の古墳

ある。舟形石棺と竪穴式石槨には方形の埴輪列が伴う。後円部中央で検出された花崗岩製舟形石棺(第1主体)は直接土中に埋設されたもので、埋葬施設の主軸方位は、報文及び加悦町史の記述では「N26度E」とされる。ただし、報文等で使用されている方位記号は「磁北」で、さらに座標値が明記されていないことを考慮すると、記載される方位の振れは、磁北からの振れであろう。真北からの振れに換算すると、約19度となる。この推測が妥当であれば、本稿の分類では、埋葬施設主軸方位は「北-南」となる。第1主体の東に隣接して構築されたのが竪穴式石槨(第2主体)で、報文では主軸方位は「N22度E」とされる。第1主体と同じ手法で算出された数値であることから、これも同様に、北-南主軸に分類される。木棺直葬の第3主体は、第1主体の西で一部が検出されている。調査範囲が狭いため判然としないが、主軸方位は北東-南西と推定される。蛭子山1号墳は、墳丘主軸が後円部から前方部にかけて南東-北西を示すのに対し、埋葬施設主軸は北-南または北東-南西を示し、埋葬施設が墳丘に対して斜交または直交するのが特徴的である。特に、墳丘に斜交する第1、第2主体は、埋葬施設主軸を北-南に指向する意図をもって設定されたと考えられる。

蛭子山古墳群に隣接する作山古墳群は、5基の古墳から構成される古墳群で、このうち1号墳、5号墳の埋葬施設主軸方位が判明している(加悦町2007ほか)。1号墳(35m造出付円墳)で葺石と埴輪が検出され、段築の存在が判明している。墳丘中央の埋葬施設は、主軸を北西-東南方向に取った花崗岩製の副室付組合式石棺が直葬され、銅鏡、石釧、玉類、鉄製品が出土している。また、墳丘周囲には木棺や埴輪棺、土器棺などの周辺埋葬が15基確認されている。5号墳は南北13m、東西10m、高さ2mの方墳である。外表施設は確認されていない。埋葬施設の主軸は北-南で、東西3.8m、南北7.6mの墓壇内に木棺を直葬する。

白米山古墳群(与謝野町)は、90mの前方後円墳である白米山古墳を中心に、白米山古墳周辺の埋葬施設や、近接して造営された台状墓群から構成される(加悦町2007ほか)。白米山古墳は2段築成で葺石はあるが、埴輪は樹立しない。後円部墳頂で中心の竪穴式石槨を含めて4基、前方部頂で1基、さらに墳丘テラスでも3基の埋葬施設が確認されている。墳丘主軸は北-南であるが、中心部埋葬施設はそれに対して直交して東-西主軸となる。他の埋葬施設の大部分も同じ主軸を向いており、調査報告では、中心埋葬の影響を受けていると評価されている。また、隣接する白米山西1・2号墳の主体部主軸方位は白米山古墳の中心主体部主軸方位と直交するが、これも白米山古墳からのなんらかの影響が指摘されている。

温江丸山古墳(与謝野町・65m円墳)は2段築成の楕円形を呈する円墳で、葺石を伴う(加

悦町2007ほか)。埴輪の樹立は確認されていないが、隣接する谷垣遺跡で、樹立した埴輪を転用した埴輪棺が存在しており、温江丸山古墳で樹立された埴輪を転用した可能性が高い。この場合、使用されたのは山陰型特殊壺形埴輪となる。埋葬施設は、楕円形墳丘の主軸とは斜交し、北-南主軸となる堅穴式石槨で、花崗岩製組合式石棺が納められていた。副葬品としては、三角縁神獣鏡1、方格規矩鏡1、鉄刀片1が採集されている。

丹後東部の主要な古墳を見ると、加悦谷に位置する古墳で、段築を有し埴輪が樹立される蛭子山1号墳、温江丸山古墳の埋葬施設が北-南主軸となることが特徴的である。一方で、両古墳に先行して加悦谷に築造される前方後円墳、白米山古墳は東-西主軸となる。白米山古墳は多数の埋葬施設が墳丘上で確認され、埴輪の樹立は確認されていないなど、加悦谷における導入期の前方後円墳と評価される古墳であるが、この段階では埋葬施設の北-南主軸の概念は浸透していないようである。宮津市の波路古墳も東-西方位であることを考慮すると、在地の墓制では東-西主軸が優勢なのであろう。北-南主軸の埋葬施設は、蛭子山1号墳の段階で埴輪祭祀とともに導入されたものと考えられる。

#### ②中央部・西部(京丹後市域・図3)

カジャ古墳(京丹後市・73m楕円形墳)は丹後地方で最大の円墳で、墳丘裾部には幅3~5mのテラスを巡らせる構造である(峰山町教育委員会1972)。段築、葺石、埴輪は存在しない。墳丘上で堅穴式石槨1基、木棺直葬3基からなる埋葬施設が並行して検出され、石釧、車輪石、鋳形石といった複数の腕輪形石製品をはじめとする豊富な副葬品が出土している。4つの埋葬施設の主軸方位はいずれも東-西を指向する。

権現山1号墳(京丹後市・50m方墳)は丘陵頂部の地山を削り出して成形された方墳で、埴輪、葺石、段築は存在しない(久美浜町教育委員会1984)。墳頂部には堅穴式石槨1基を中心に囲むような配置で木棺墓6基が検出されている。埋葬施設の多くは東-西主軸となる。

北谷1号墳(京丹後市・40m楕円形墳)は、権現山古墳と同様に地山を削り出して成形された古墳で、埴輪、葺石、段築は存在しない。不整形な楕円形の墳頂部平坦面に東-西主軸で、木棺直葬の埋葬施設が1基のみ検出されている(京都府埋蔵文化財調査研究センター1995)。

大田南古墳群(京丹後市)は環状乳神獣鏡が出土した2号墳(22m方墳)、青龍三年銘方格規矩四神鏡が出土した5号墳(19m方墳)をはじめとし、丘陵尾根上に営まれた古墳群である(弥栄町教育委員会1991・1998)。2号墳の埋葬施設は一つで舟底状の木棺を直葬する。5号墳では、銅鏡の出土した埋葬施設を中心に、墳丘平坦面上に4基の埋葬施設が確認されている。6号墳(28.5m円墳)は大型墓壇1つが確認され、木槨、組合式木棺および礫床

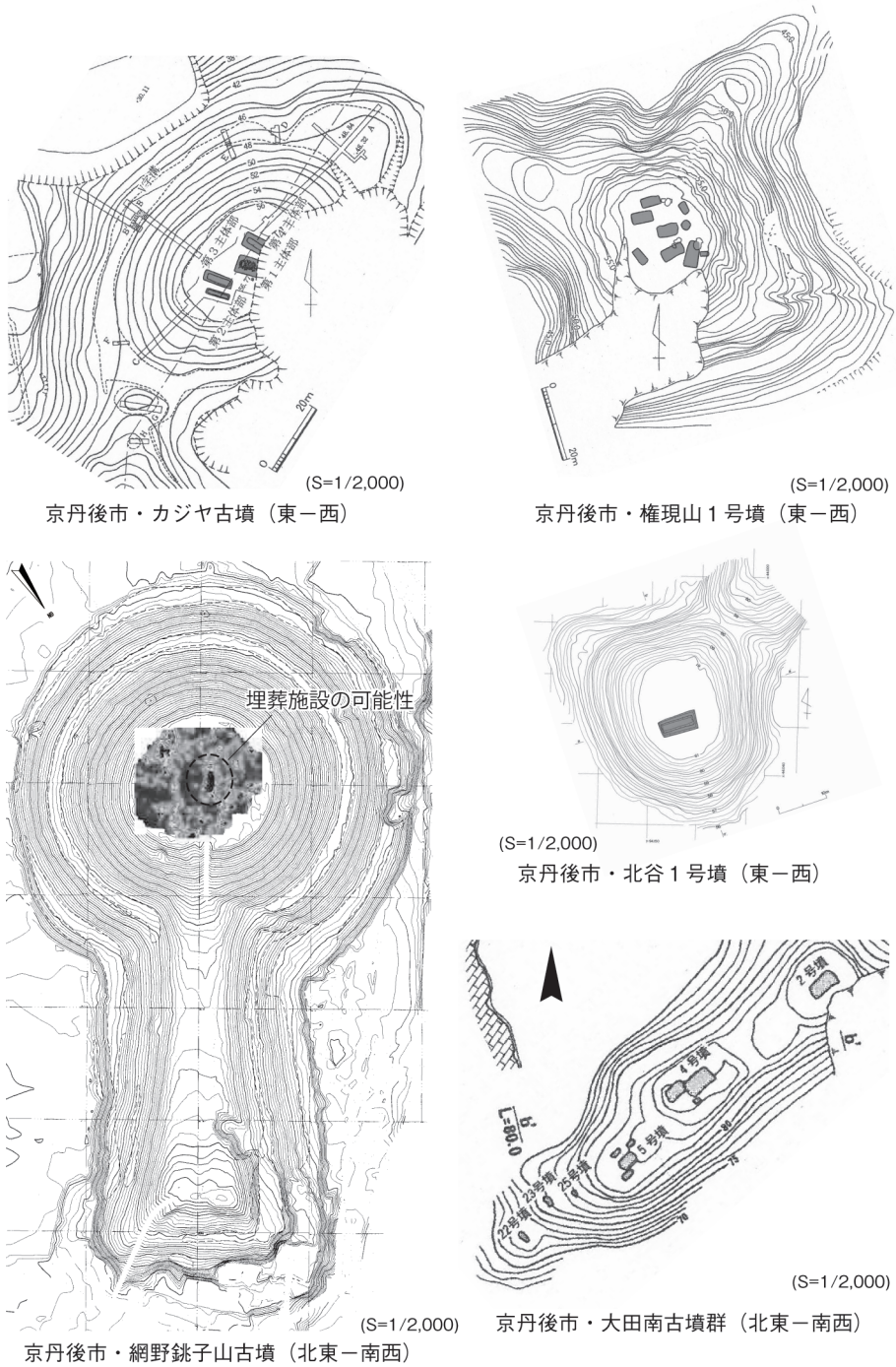


図3 丹後中央部・西部(京丹後市域)の古墳

が検出されている。石釧、鉄製品、土器類が出土している。大田南古墳群では、丘陵尾根の軸線方位に即してまず墳丘が造られ、その墳丘主軸に平行して各埋葬施設が造られている。すなわち、2、4、5号墳の墳丘及び埋葬施設の主軸方位は、尾根と平行した北東－南西となり、6号墳の場合は、東－西となる。

網野銚子山古墳(京丹後市・201m前方後円墳)は、埋葬施設は未発掘であるが、地中レーダー探査が実施されている(岸田・小田木・桑原・橋本・岡林2018)。探査では後円部墳頂で埋葬施設の可能性のある東西2.5m×南北5.5mの規模の反応が確認され、石材を持つ埋葬施設の存在が推定されている。石材と考えられる反応が出たことからこの結果は信頼性が高いと判断する。埋葬施設の主軸は墳丘主軸と平行するが、墳丘の主軸は、報告書(京丹後市教育委員会2024)の図面から導出すると真北から35度東に振れるため、埋葬施設は北東－南西主軸となる。同古墳の墳丘は、三段築成で葺石がすべての斜面に伴い、丹後型円筒埴輪が墳丘を圍繞する。

丹後中央部・西部の網野銚子山古墳以外の古墳は、定型的な古墳とは異なり、地山を削り出して成形され、埴輪、葺石、段築が存在せず、墳頂部に複数の埋葬施設が造られることがあるといった特徴が挙げられるが、これらの古墳の埋葬施設主軸方位は東－西が多く、在地色の強い古墳は、都出比呂志が従来指摘していたとおり、東－西主軸が優勢であることがわかる。一方、定型的な前方後円墳で、日本海側で最大規模を誇る網野銚子山古墳の埋葬施設主軸方位は北西－南東となる。墳丘主軸と平行するこの埋葬施設方位に、東部の蛭子山1号墳のような北－南主軸への指向が反映されているとは考えにくい。大田南古墳群のように、古墳が造られた地形に合わせて、この主軸方位となった可能性が高い。

## (2)丹波地域(図4・付表)

成山古墳群(綾部市)は3基で構成される古墳群で、2号墳(20m方墳)は割竹形木棺を埋葬施設とし、3号墳(20m方墳)は組合式木棺と土壙墓を埋葬施設とし、土壙墓は土師器大型二重口縁壺を蓋とする構造である(京都府教育委員会1966ほか)。2号墳では墳丘中央部で、北－南主軸の木棺直葬が検出されている。飛禽鏡1面、ガラス小玉116個が出土している。3号墳は第1主体部が東－西主軸の木棺直葬で、第2主体部がほぼ正方形の土坑内に北－南主軸の土器棺が3基据えられる構造である。中心的な埋葬施設は第1主体部であるが、それより約0.5m低い標高で第2主体部が検出され、時期差が想定されている(京都府立丹後郷土資料館2011)。

宝蔵山古墳群(福知山市)は方墳4基、円墳2基から構成される古墳群で、最大規模の4号墳は墳丘長25mの方墳である。1～3号墳(10m方墳)は各1基の埋葬施設があり木棺直葬である(京都府教育委員会1967ほか)。4号墳には6基の埋葬施設が確認され、木棺直

葬1基、箱式石棺1基、土器棺3基から構成される。同古墳群の埋葬施設は、いずれの古墳でも東－西主軸と北－南主軸のものが同一墳丘上で併存する。

広峰15号墳（福知山市・40m前方後円墳）は後円部で木棺直葬の埋葬施設が1基検出され、景初四年銘鏡を始め鉄製品、玉類が副葬される（福知山市教育委員会1989）。埋葬施設の主軸は北西－南東である。前方後円墳ではあるが、段築、埴輪、葺石は存在せず、簡素な構造である。近隣には低墳丘の方墳が集中しており、15号墳も同様に在地的な色彩の強い古墳と位置づけられる。

丸山古墳（兵庫県丹波市・48m前方後円墳）は、後円部で2基の竪穴式石槨、前方部や墳丘の周辺から竪穴式石槨、箱式石棺、木棺直葬といった多様な埋葬施設が検出された（山南町1977）。後円部竪穴式石槨をはじめ、墳丘上の埋葬施設は東－西主軸が優勢である。隣接する2号墳（方墳）、3号墳（円墳）も同様に東－西主軸が優勢である。

参考事例として、丹波南部の南丹市域の事例を挙げておくと、黒田古墳（南丹市・52m前方後円墳・弥生末）では北東－南西方位の埋葬施設が2基検出された。いずれも木棺直葬で、うち1基は割竹形木棺の可能性がある。園部垣内古墳（南丹市・82m前方後円墳・前期後葉）は後円部で埋葬施設1基が検出されている。粘土槨である。三角縁神獸鏡3面をはじめとする豊富な副葬品が出土した埋葬施設の主軸は東－西を指向する。

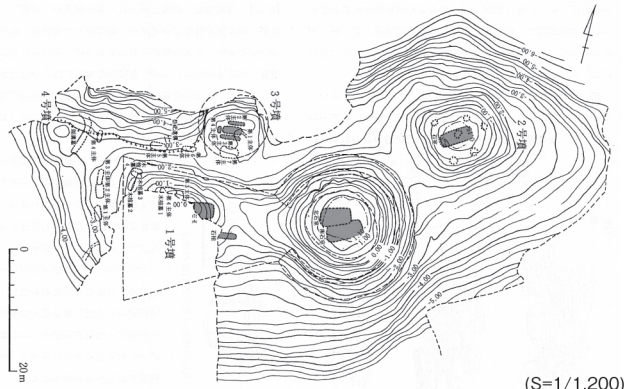
丹波地域は、前期の中型・大型古墳が少ない地域である。方墳、円墳から構成される成山古墳群と宝蔵山古墳群では東－西主軸と北－南主軸の埋葬施設が混在する。一方で、前方後円墳である北部の広峰15号墳、丸山1号墳、南部の黒田古墳、園部垣内古墳の埋葬施設は、東－西方位が優先であるか、あるいは墳丘主軸との関係が重要で正方位に拘らない主軸方位を示すかのいずれかである。

上記の特徴から、丹波地域では、近畿中枢域の首長墳で認められるような北－南主軸の優位性が首長墳であっても定着しておらず、むしろ東－西方位が優勢な地域と位置づけられる。

### （3）但馬地域（図4・附表）

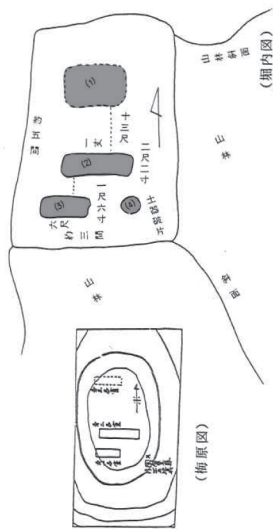
若水古墳（朝来市・41m円墳）は2基の埋葬施設からなり、いずれも組合式箱形木棺を主体とする（兵庫県教育委員会2009）。第1主体部には飛禽鏡と連弧文鏡が各1面副葬されていた。埋葬施設主軸方位は、墳丘主軸と平行し、北西－南東を示す。

森尾古墳（豊岡市・規模不明）は丘陵突端部に形成された古墳で大正6年に発見された（兵庫県1925ほか）。後年の土地造成によって詳細は不明となっているが、墳丘規模は25m以内と想定されている。3基並ぶ東－西主軸の「小型石室」からは銅鏡が各1面出土しており、但馬地域の代表的な前期古墳とされている。

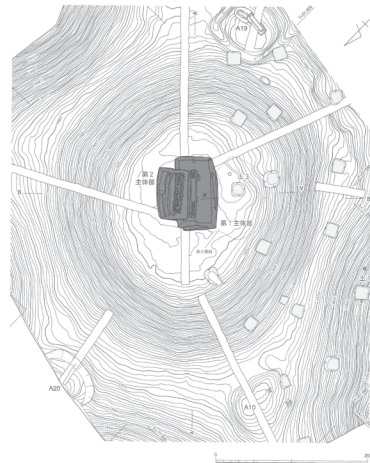


(S=1/1,200)

丹波市・丸山古墳群（東－西）



豊岡市・森尾古墳（東－西）



(S=1/1,000)

朝来市・若水古墳（北西－南東）



(S=1/60)

朝来市・城ノ山古墳（東－西）

図4 丹波・但馬の古墳

城ノ山古墳（朝来市・36m円墳）は地山成形で造られ、葺石と埴輪は確認されていない（和田山町・和田山町教育委員会1972）。埋葬施設は組合式木棺を直葬するもので、三角縁神獸鏡3面をはじめとする計6面の銅鏡や石製品、玉類、鉄製品が出土している。墳丘上に3基ある埋葬施設の主軸方位は全て東－西となる。

但馬地域では前期古墳の埋葬施設で主軸方位が判明している事例が少ないが、学史上、古くから知られてきた森尾古墳、城ノ山古墳の埋葬施設が東－西主軸であることから、隣接する他地域と同様、東－西主軸が優勢な地域と推測できる。

#### （4）因幡・伯耆地域

今回の分析対象である北近畿地域と関連する地域では、西に隣接する、現在の鳥取県域にあたる因幡・伯耆の様相も参考になる。紙面の都合もあり個別事例の分析は控えるが、当地域の前期古墳の様相を分析した君嶋俊行<sup>(注6)</sup>によると、当地域の前期古墳の埋葬施設の頭位は東西方向からそれぞれ45°ほど振れた範囲に収まり、明らかに東西方向を指向している。君嶋の整理によると、この頭位の傾向は、弥生時代以来の伝統の踏襲とされている。代表事例として、当地域で最も「畿內的」な前方後円墳とされる馬ノ山4号墳（88m前方後円墳・埴輪・葺石・銅鏡・腕輪形石製品・鉄製品を副葬）を挙げると、東頭位であることが判明している。

このように、因幡・伯耆地域は、北－南主軸の埋葬施設が受容されていない地域と位置づけられている。

## 5. 結論

北近畿地域は、特に丹後半島で弥生時代後期から後期末に墳丘墓が造営され、ガラス製品、鉄製品が豊富に副葬されることで著名な地域であるが、古墳時代初頭から前期の墓制は、在地性の強いものとされてきた。

こうした在地性は、埋葬施設の主軸方位にも現れている。小稿の分析では、都出比呂志が指摘したように、当地域の大部分の古墳で、埋葬施設主軸方位は東－西が優先であることを追認することになった。

一方、丘陵の尾根筋に造られる古墳の多くは、墳丘の主軸が尾根の主軸に平行して設計され、埋葬施設の主軸は古墳の墳丘、ひいては尾根の主軸に平行または直交する傾向が強い。この傾向は、日本海側で最大の前方後円墳である網野銚子山古墳も同じである。

そして、この傾向は隣接する丹波、但馬地域、さらに西の因幡、伯耆地域でも同様に、主要な古墳の埋葬施設の主軸は、東－西となるか、もしくは地形に即して成形された墳丘の主軸方向に準じて埋葬施設を造ることが優先され正方位への固執が見てとれないか、の

付表 北近畿地方の前期古墳と中心埋葬施設の主軸

古墳名称	旧国	時期	墳丘規模	埋葬施設主軸	墳丘主軸との関係	葺石	埴輪
大田南2	丹後	前期初頭	22m 方墳または円墳	北東-南西	平行	無	無
大田南5	丹後	前期初頭	18.8m 方墳	北東-南西	平行	無	無
大田南6	丹後	前期	28m 円墳	東-西	平行	無	無
白米山	丹後	前期中葉	90m 前方後円墳	東-西	直交	有	無
権現山	丹後	前期中葉	50m 方墳	東-西	平行	無	無
北谷1	丹後	前期中葉	40m × 36m 楕円形	東-西	直交	無	無
波路	丹後	前期後葉	30m 円墳	東-西	斜交	無	無
カジャ	丹後	前期後葉	73m × 55m 楕円形	東-西	平行	無	無
蛭子山1	丹後	前期後葉	145m 前方後円墳	北-南	斜交	有	有
温江丸山	丹後	前期後葉	65m 楕円墳	北-南	斜交	有	有
網野銚子山	丹後	前期末	202m 前方後円墳	北東-南西	平行	有	有
城の山	但馬	前期後葉	36m 円墳	東-西	平行	無	無
森尾	但馬	前期後葉	14m × 22m 方墳か	東-西	直交	不明	不明
丸山	丹波	前期後葉	48 m 前方後円墳	東-西	平行	無	無
広峯15	丹波	前期初頭	40m 前方後円墳	北西-南東	平行	無	無
成山2	丹波	前期前葉	20m 方墳	北-南	平行	無	無
成山3	丹波	前期初頭	20m 方墳	東-西	直交	無	無
宝蔵山4	丹波	前期後葉	25m 方墳	東-西	平行	無	無

どちらかとなる。

一方で、この広い範囲での傾向に、例外的に収まらないのが、丹後地域の加悦谷に造られた首長墳、蛭子山1号墳と温江丸山古墳である。両古墳の埋葬施設主軸は、近畿中枢の古墳ほどの高い精度では無いとはいえ、北-南を指向する。また、墳丘主軸と斜交することからも、古墳が築造された地形とは別に、埋葬施設の方が重視されたことが看取できる。一方、隣接する作山古墳群の埋葬施設は必ずしも北-南を指向しないし、同じ加悦谷の首長墳でも、丹後地域における最初の定型的な前方後円墳と見なされ、蛭子山1号墳に先行する白米山古墳は、上述のとおり、埋葬施設主軸は東-西となる。また、中期の首長墳を見ても、岩滝丸山古墳(与謝野町)、ニゴレ古墳(京丹後市)、嶋谷東1号墳(与謝野町)といった主要な古墳の埋葬施設主軸方位はいずれも東-西を示す。

蛭子山1号墳と温江丸山古墳は、丹後型円筒埴輪と墳丘の段築、葺石といった定型的な古墳の要素が存在しており、埴輪の形状こそ在地化しているとはいえ、古墳の外表施設には近畿中枢部の強い影響が認められるのであるが、埋葬施設における葬送儀礼との強い関連が想定される埋葬施設の主軸方位も、近畿中枢部と同様に北-南を示す。すなわち両古墳は、多数の人間が視認できる外形的な施設だけでなく、少数の限られた人数だけが参加する、埋葬施設における葬送儀礼の執行においても、近畿中枢部との関係が推定し得る。

しかし、蛭子山1号墳と同様に、段築と葺石を有する墳丘に丹後型円筒埴輪が樹立される日本海側最大の前方後円墳である網野銚子山古墳は、墳頂部の発掘調査は実施されていないものの、地中レーダー探査の結果、埋葬施設の主軸方位が墳丘主軸と平行して北東-

南西である可能性が高いことが近年明らかになった。網野銚子山古墳は、蛭子山1号墳の次の世代の丹後を代表する前方後円墳であるものの、埋葬施設の主軸方位を重視して造られていない可能性が高いのである。

北－南主軸の埋葬施設が、加悦谷の前期後葉の首長墳に限定され、同じ加悦谷でも前後する時期の古墳には認められないこと、そして、丹後地域を含む北近畿地方とその周辺の、大型前方後円墳を含む首長墳では北－南方位の埋葬施設がほとんど認められないことから、葬送儀礼への参加といった近畿地方中枢部との直接的な関係を有する首長は、北近畿地方においては、空間的にも時期的にも、極めて稀な存在であったと考えられる。

蛭子山1号墳は、定型的な近畿中枢部の前方後円墳が丹後に導入された画期的な古墳である。そして、本稿における埋葬施設主軸方位の分析結果が妥当であるとすれば、蛭子山1号墳の被葬者は近畿中枢部の有力者との直接的な関係を持った人物であったと考えられる。一方、後続する首長墳の被葬者は近畿中枢部との関係はあるものの、やや間接的なものに留まっていたことになる。この分析の是非は、埋葬施設のより詳細な検討によって明らかになるであろう。今後の課題としておきたい。

(ふるかわ・たくみ=京都府文化生活部文化政策室課長補佐)

- 注1 古川 匠2022「京都府南部における古墳埋葬施設主軸方位の地域性(上)」『京都府埋蔵文化財情報』143号 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 注2 古川 匠2023「京都府南部における古墳埋葬施設主軸方位の地域性(下)」『京都府埋蔵文化財情報』144号 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 注3 都出比呂志2005「竪穴式石室の地域性の研究」『前方後円墳と社会』塙書房(初出:都出比呂志1986『竪穴式石室の地域性の研究』大阪大学文学部国史研究室)
- 注4 北条芳隆2017『古墳の方位と太陽』同成社
- 注5 近畿地方中央部の前期古墳埋葬施設の主軸方位については、真北からの振れについて、詳細な議論が展開されているため精度の高い区分が必要であるが、北近畿地方においては、本稿のような粗い分類がむしろ効果的と判断する。
- 注6 君嶋俊行2002「因幡・伯耆における前期古墳の様相－葬送儀礼からみた伝統と画期－」『山陰の前期古墳』(第30回山陰考古学研究集会資料集)

#### 参考文献

- 加悦町 2007『加悦町史』資料編 第1冊
- 加悦町教育委員会 1992『史跡蛭子山・作山古墳整備事業報告書』
- 加悦町教育委員会 1997『白米山古墳Ⅰ』
- 加悦町教育委員会 1998『白米山古墳Ⅱ』
- 加悦町教育委員会 1999『白米山古墳Ⅲ・須代遺跡Ⅳ』

- 岸田徹・小田木治太郎・桑原久男・橋本英将・岡林峰夫 2018「京都府京丹後市網野銚子山古墳における物理探査」『日本文化財科学会第35回大会研究発表要旨集』
- 京丹後市教育委員会 2024『網野銚子山古墳 整備事業に伴う発掘調査2』（京丹後市文化財調査報告書第26集）
- 京都大学考古学研究会 1996「宝蔵山古墳発掘調査報告」『第17トレンチ』京都大学考古学研究会
- 京都府教育委員会 1961「加悦丸山古墳」『京都府文化財調査報告』22
- 京都府教育委員会 1966『埋蔵文化財発掘調査概報』1966
- 京都府教育委員会 1967『埋蔵文化財発掘調査概報』1967
- 京都府立丹後郷土資料館 2011『宝蔵山古墳と成山古墳－由良川水系の前期古墳－』
- （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1995「北谷古墳群」『京都府遺跡調査概報』第65冊
- 久美浜町教育委員会 1984『権現山古墳発掘調査概報』（京都府久美浜町文化財調査報告第9集）
- 山南町 1977『兵庫県氷上郡山南町丸山古墳群－調査の概要－』
- 兵庫県 1925『兵庫県史跡名勝天然記念物調査報告』2
- 兵庫県教育委員会 1972『城の山・池田古墳』
- 兵庫県教育委員会 2009『若水古墳群・城跡』（兵庫県文化財調査報告第364集）
- 福知山市教育委員会 1989『駅南地区発掘調査概要－寺段古墳群・広峰古墳群－』（福知山市文化財調査報告第16集）
- 峰山町教育委員会 1972『カジヤ古墳発掘調査報告書』（峰山町文化財調査報告書第1集）
- 宮津市教育委員会 1988『波路古墳・波路城跡・荒神社跡』（宮津市文化財調査報告第16集）
- 峰山町教育委員会 1998『大田南古墳群－大田南遺跡－矢田城跡第2次～第5次発掘調査報告書』（京都府峰山町文化財調査報告第18集）
- 弥栄町教育委員会 1991『大田南古墳群』（京都府弥栄町文化財調査報告第7集）
- 弥栄町教育委員会 1998『大田南古墳群－大田南遺跡－矢田城跡第2次～第5次発掘調査報告書』（京都府弥栄町文化財調査報告第15集）
- 和田山町・和田山町教育委員会 1972『城の山・池田古墳』